

捕獲等事業評価シート
様式

(熊本県 環境生活部環境局自然保護課)

評価シート（イノシシ）

1. 事業評価と見直しの基本的な考え方

本評価シートでは、以下の STEP 1～3 のとおり、捕獲等事業が計画通りに行われたか、その結果期待した成果が得られたか、といったことを確認します。

STEP 1 予定通りの作業ができたか、効率的な捕獲ができたか評価する。

STEP 2 捕獲によって出沒（密度）や被害が減少したかを検証する。

STEP 3 評価の結果を踏まえて、次年度事業の捕獲場所・時期・手法・従事者等の見直しを行う。

STEP 1 予定通りの作業ができたか、効率的な捕獲ができたか評価する。

■ 事業概要

事業実施地域	上天草市大矢野町維和島
事業主体	熊本県自然保護課
事業実施期間	令和6年12月20日～令和7年3月21日
捕獲手法	箱わな、くくりわな
事業メニュー	②捕獲等メニュー
事業費	4,465,259円

（※）捕獲コスト把握のため本事業地にかかる事業費のみ記載

■ 事業の評価

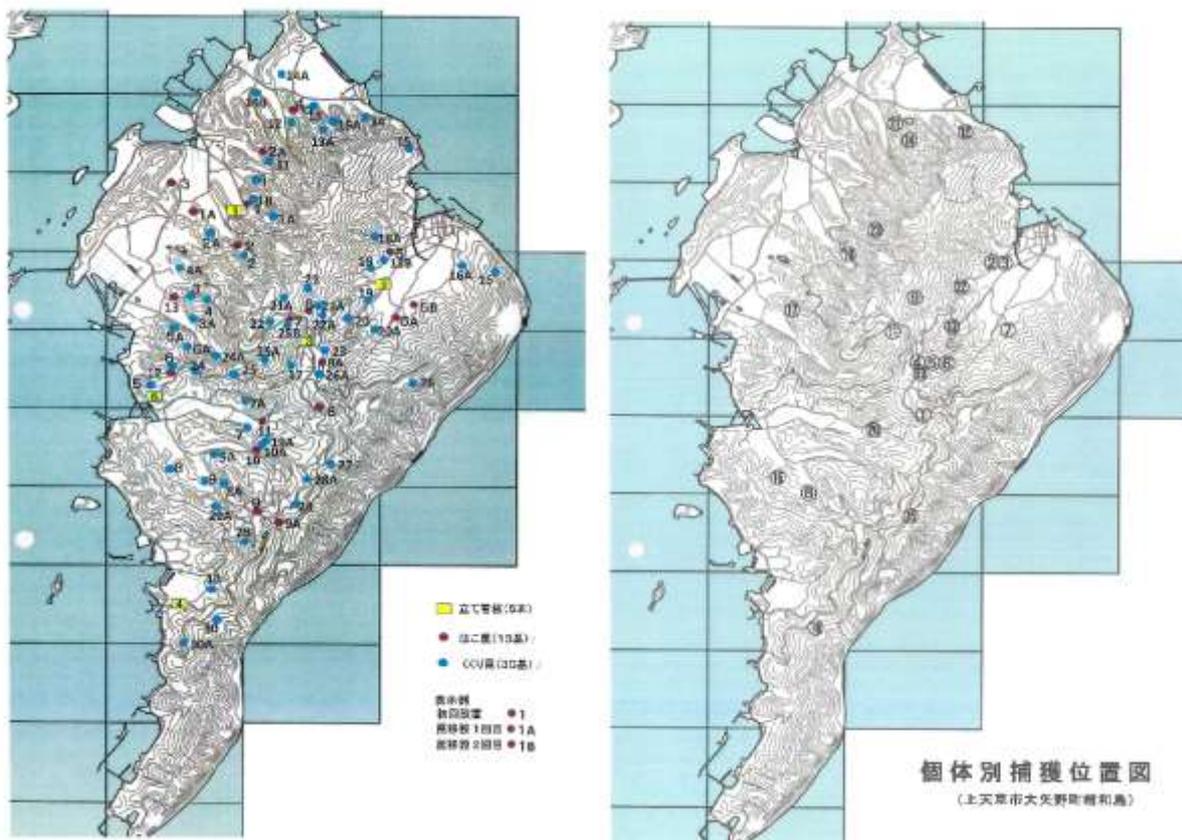
評価項目	当初予定	実績	評価
捕獲目標	合計 50 頭	くくりわな：11頭 箱わな：12頭	捕獲目標の達成率は46%であった。目標が達成できなかった理由として、事業実施2年度目のため、生息頭数が減少したことが考えられる。R5年度は島の西側の捕獲頭数が多く、R6年度は島の東側での捕獲数が増加した。
捕獲作業量	くくりわな：30台日 箱わな：13台日	くくりわな：30台日 箱わな：13台日	計画通りの作業量を投じることができた。
効率的な捕獲	くくりわな：0.833頭/台日 箱わな：1.92頭/台日 ※計画捕獲予定数	くくりわな：0.37頭/台日 箱わな：0.92頭/台日	くくりわなの捕獲効率が予定よりも低かった理由は、事業実施地域が、箱わなが主流であることやR5年度にも、事業を実施したことから島全体の生息頭数が減少したことが考えられる。
事業に要した人員数	延べ130人	延べ138人	予定通りの人員数を投じて作業を実施した。従事者1人当たりの捕獲数は0.167頭であった。

安全管理体制	指定管理鳥獣捕獲等事業計画として提出	提出した計画に沿って作業を行った。人身事故やその他の事故は発生しなかった。	安全に予定通りの計画で事業は遂行された。
捕獲個体の処分方法	指定管理鳥獣捕獲等事業計画に記載したとおり、生態系に重大な影響を及ぼすおそれがないよう林内に埋設。	提出した計画に沿って作業を行った。獣による掘り起こし等は発生しなかった。	予定通りの計画で事業は遂行された。
環境への影響への配慮	・止めさしは可能な限りナイフで行う。	・止めさしは可能な限りナイフで行われた。	予定通りの計画で事業は遂行された。
捕獲個体の属性	・オス 19 頭、メス 12 頭 ・成獣 26 頭、幼獣 5 頭 ※昨年度事業実績	・オス 10 頭、メス 13 頭 ・成獣 23 頭 (すべて成獣)	昨年度よりもメスの割合が増えており、定着が進んでいると考えられる。

■ 添付図面 (地点 (緯度経度) 地図/ 5 kmメッシュ地図/ 1 kmメッシュ地図)

- ・ 捕獲数とその位置を落とした図 (必須)

(図)



わな設置位置図

STEP 2 捕獲によって出沒（密度）や被害が減少したかを検証する。

■ 事業実施地域

上天草市大矢野町維和島

■ 出沒（密度）

評価項目	モニタリング項目・方法・情報
事業実施前もしくは事業開始時・前半	・箱わなに仕掛けた食痕跡がわなの外側だけで見られるわなが多かった ・箱わなの中の食痕跡がある場合は、民家に比較的近い開けた場所で見られた
事業実施後もしくは事業終盤・後半	・箱わなに仕掛けた食痕跡がわなの外側、内側で見られるわなが増加 ・2月中旬頃からわなの内側まで食痕跡のある場所が島の南側へ移動した
評価	捕獲はしたものの食痕跡が事業終盤も確認されたため、生息数は依然として多いものと考えられるため、捕獲圧を高める必要がある。

■ 被害

評価項目	モニタリング項目・方法
事業実施前もしくは開始時・前半	(イノシシ) ・未確認
事業実施後もしくは事業終盤・後半	(イノシシ) ・未確認
評価	(イノシシ) 事業前後の検証が不十分であったため、R7年度は事業前後の検証も行っていく。

■ 添付図面

添付図面によって事業効果をわかりやすく認識できることから、添付いただくことでより正確な評価と次年度の査定につながります。できる限りの添付をお願いいたします。

※添付図面なし

STEP 3 評価の結果を踏まえて、次年度事業の捕獲位置・時期・手法・従事者等の見直しを行う。

■ 捕獲等事業に関する評価及び改善点（STEP 1・2の検証を踏まえて記載する。）

1. 捕獲に関する評価及び改善点*	
【目標設定】	評価：予定よりも事業実施時期が遅くなり、目標の46%の捕獲率となった。
	改善点：イノシシの有害捕獲数の多く、R6年度とは別の場所で事業実施を行う。
【実施期間】	評価：積雪等の時期と被ったため、くくりわなが作動しなかった。
	改善点：実施期間が寒く、わなの作動しにくいことも考えられるため、昨年度より早い時期に事業実施を行う。
【実施位置】	評価：適切
	改善点： —
【捕獲手法】	評価：適切
	改善点： —

【捕獲コスト】	評価：目標よりも1頭あたりの捕獲単価が8万円高かった。
	改善点：目標捕獲数となるよう事業実施時期、わなの設置場所を検討する。
2. 体制整備に関する評価及び改善点	
【実施体制】	評価：適切
	改善点：—
【個体処分】	評価：生態系に重大な影響を及ぼすことなく、適切に埋設された。
	改善点：—
【環境配慮】	評価：適切（可能な限りナイフによる止めさしを行った）
	改善点：環境配慮するよう契約の際の仕様書に追記する。
【安全管理】	評価：適切（注意を促す立て看板を設置し、人身事故やその他の事故は発生しなかった）
	改善点：—
3. その他の事項に関する評価及び改善点 特になし。	
4. 全体評価 体制の整備に関しては計画通りだったものの、事業実施時期が予定よりずれ込んだこともあり、目標頭数を捕獲できなかった。また、事業前後の検証が不十分であったため、R7年度は事業前後の検証も行っていく。	

■ 特定鳥獣保護・管理計画の目標に対する、本事業の寄与状況について

	モニタリング項目・方法
特定鳥獣保護・管理計画の目標	計画では農林水産業の被害額となっており、目標達成には至っていない。 （目標：農林水産物被害額1億5千万、R5実績：5億3千万） 有害捕獲数の多い天草地域で本事業を実施し、捕獲圧を高める。
寄与状況の評価	昨年度は上記計画の年間目標捕獲数を上回る捕獲数となっており、本事業も捕獲に寄与しているものの、依然として農林水産業の被害額の目標達成には至っていない。目撃情報や有害捕獲数の多い地域で本事業を実施することで、個体密度を低下させ、生態系被害や農林業被害の低減に寄与すると考えられる。